

宝物はすぐそばに

校内研通信

第45号

R7.12.23

発行者:校内研担当 仲村智

『明日の天気はこちらです!』ガチャピン予報士をこえろ

12月23日(火)2校時、2年4組にて宜野座一彦先生が理科の授業を公開しました。本時のねらいは、天気図を読み取り天気の変化を予測し発表することです。導入では、単元全体の既習事項を穴埋め形式で提示し生徒との楽しいやりとりのなか大事なポイントを復習し、本時の活動につなげていきました。天気図から天気を予報するという現実世界ではスーパーコンピューターで行っている難しい作業を、グループで意見を出し合いながら、時には教科書や先生の手も借りて、最後まで粘り強く考えていました。途中、うまく進んでない様子から、宜野座予報士によるキャスター顔まけの天気図分析から流れるようなアナウンスまでを披露し、生徒は「さすが」と感嘆した表情をみせ、自身の思考のスイッチをあげていくことができました。時間はオーバーしましたが、Well made なモデル図ではなく実際の天気図を使って活動したチャレンジ精神、さすがです🍀



RS
みつけた!

天気図の読み取りは、情報を分析・解釈し、論理的に推論する力を養うため、RS(読解力)の向上と密接に関連しています。天気図を読み解くプロセスは、文章読解に必要な複数のスキルと共通しているのです!

情報をまとめる「統合力」：散在する記号やデータを組み合わせ、全体の流れを把握するプロセスは、文章の要旨をまとめ、重要な情報を取捨選択する能力に直結します。

定義を適用する「論理的思考力」：「等圧線の間隔＝風の強さ」といったルールを実例に当てはめる作業は、定義に基づいて物事を正しく認識する読解の基礎を訓練します。

因果関係を探る「推論力」：図の情報(根拠)から未来の天候(結論)を導き出す過程は、文章の行間を読み、物事の「なぜ」を論理的に推論する力を高めます。

比較から見出す「分析力」：複数の天気図や画像の差異・共通点を捉える視点は、資料を多角的に分析し、高度な文脈を読み解く力(RS)の形成に寄与します。

視覚的理解と文章理解の相互補完：天気図などの視覚情報を正確に読み取る力は、説明的文章の読解力を育成する上で重要な要素となり、逆に概念的な文章を理解する力は、図で示された情報の背景にある物理法則を深く理解するのに役立ちます。